

令和6年度

中学生の広島市平和記念式典への派遣事業感想文集



令和6年度 広島市平和記念式典派遣中学生

学校名	氏名	ページ
藤枝中学校	岡村 みつは (おかむら みつは)	2
西益津中学校	原川 佳乃 (はらかわ よしの)	3
青島中学校	尾野 那月 (おの なつき)	4
葉梨中学校	寺田 菜都 (てらだ なつ)	5
高洲中学校	早川 沙英 (はやかわ さえ)	6
大洲中学校	栞高 悠人 (くわたか ゆうと)	7
瀬戸谷中学校	向島 いろは (むこうじまいろは)	8
広幡中学校	石垣 智雪 (いしがき ちゆき)	9
青島北中学校	新谷 由菜 (しんたに ゆな)	10
岡部中学校	高橋 優歩 (たかはし ゆほ)	11
藤枝順心中学校	古市 愛理 (ふるいち えり)	12



原爆ドームにて

色々な部分が崩壊し、鉄骨までもが曲がってしまった原爆ドームは79年前の出来事を静かに語っているように見えました。

昭和20年8月6日、あの日に原爆が落ち、多くの人が犠牲となった事実を受け止めきれませんでした。爆心地付近で被爆された人は、何が起こったのか分からないまま亡くなり、即死をまぬがれた人は、重度の火傷や後遺症に長く苦しみ、亡くなったことを知りました。

広島平和記念資料館で見た、当時の悲惨さが伝わる写真、被爆された人たちの思い出が残る物はどれも胸を締め付けられました。しかし、最後に展示されていたのは、母親が子供を抱き上げている写真でした。題名には、「新たな命」と書かれていました。被爆者の方もお話されていたように、繋がれてきた命を大切に生きる思いが込められていると思います。

私は、「願うだけでは平和は訪れない。」という言葉が一番印象に残っています。今回学んだことを多くの人に伝え、平和のための行動をしていきたいと思いました。



広島市平和記念式典に参加

皆さんは原爆についてどのくらい知っていますか？今回私は西益津中学校の代表として原爆の事を学んできました。そこで学んだ事を皆さんと共有したいと思います。

原爆は爆心地から約1kmに渡って被害をもたらし、被爆した物や人はドロドロに溶けたり、ボロボロになったりしてしまいます。現代では想像出来ない状況を見て思わず息を飲んでしまいました。

広島市平和記念式典では「願う」だけでは平和は訪れないと知り、友達や家族と語り合い、深める事が大事だと学びました。

実際に広島に行ってみて、原爆の事や戦争の事をもっと深く知りたいたいと思いました。この経験で得た学びを活かして、人々に広める事が出来れば良いと思います。二度と生き地獄のような状況を作り出さない為にも、さらに戦争の恐ろしさを知る所から始めます。



藤枝市平和祈念式典にて感想文を朗読

私が広島に行き、強く印象に残っていることは、8月6日に参加した「ひろしま子ども平和の集い」での被爆者による被爆体験講話です。

被爆者による話は、広島平和記念資料館で見たものよりも、ずっと具体的で、恐怖を感じました。中でも「忘れてしまったことは繰り返す」というような言葉が頭に残っています。79年前に起こった出来事、今までは私には関係ない、知らなくていいと考えていたけれど、原爆について知って、私達のような原爆を知らない世代に伝えて、覚えておくことが大切という考えになりました。

また、原爆ドームは、テレビや写真で見たものの何倍も迫力がありました。高いビルなどが多く立っている広島にある当時のままの姿の原爆ドームは、核兵器の悲惨さが伝わり、戦争は繰り返してはいけな
いと感じました。

戦争を繰り返さないために大切なことは、知ること、伝えることです。まずは身近な友達や家族に感じたことを伝えたいです。



ひろしま子ども平和の集いに参加

「原爆や戦争のことは、悲惨だから知りたくない。」

これは私が、広島に行くまで思っていたことです。

私は、8月5日に広島平和記念資料館を見学しました。その中で、一番心に残ったのは、「母の遺書」です。遺書には、子どもや夫を心配したり、子どもの未来を応援する内容が書かれていました。それを見た瞬間、私は涙が止まりませんでした。子どもにも、夫にも、遺書を書いた本人にも、いつもと変わらない明日があったはずなのです。それが、たった一つの爆弾によって壊されてしまいました。もし落とされていなかったら、夜に家族で一つの机を囲むことができていたのだと思います。今の私達には、当たり前のことです。

原爆や戦争のことは悲惨だから、知ろうとしない、忘れようとするのではなく、悲惨だからこそ、繰り返さないよう、被爆者達の記憶を語り継がないといけない。それは、原爆が初めて使われた日本に住んでいる私達の使命であり責任なのではないでしょうか。年々、被爆者の平均年齢は上がっていくばかりです。そこで、広島で学んだ私達が行動をおこさなければいけないのです。まずは、自分の周りの人に伝えることから始めましょう。本当に平和だと言える世界に向けて。



広島平和記念資料館を見学

私は、はじめて広島県に行きました。今の広島県は人口が多く、自然が豊かで美しい街でした。

79年前の8月6日、午前8時15分、たった一発の原子爆弾で20万人もの人達が亡くなりました。原子爆弾は、一瞬で多くの人の命を奪い、人が人であることを否定する非人道的な恐ろしい兵器だと思いました。原子爆弾のような兵器は今もこの地球上にあり、歴史上の悲劇が再び繰り返されそうになっています。今の日本は平和ですが、今も戦争が続き、平和ではない国もあります。

今の時代を生きる私達ができることは、今の日本をつくってくれた人達に感謝すること。過去にあった悲劇を繰り返さないことを私達の次の世代に、この悲劇を受け継いでいくことだと思いました。今回、広島に行かせていただき、平和の大切さ、命の尊さなど、多くのことを学ぶことができました。



藤枝市平和祈念式典にて感想文を朗読

広島平和記念資料館では、原爆によってもたらされた恐ろしい被害を目の当たりにし、とても衝撃でした。建物は倒壊し、街は燃え盛り、一瞬にして日常が消されました。現実とは思えないような惨劇でした。

自分達と同年代の中学生も建物疎開作業に取り組む日で、大勢外に出ていたことからたくさんの被爆者を出し、大勢の子供が亡くなりました。足取りが重くなるほど心に突き刺さる写真や絵がとても多かったです。核兵器の恐ろしさを知り、二度とこのようなことが起きてはならないと強く感じました。

実際に被爆した方の話は、心が苦しくなり、耳を塞ぎたくもなりました。それでも、私たちが戦争をなくすことは難しいですが、命を大切にすることはできます。今私たちが生活を送れていることが当たり前だと思わず、周りの人々に感謝をする。そして、被爆者の方の悲しさや苦しみを未来に届け、平和な世界を作る。それが、私たちにできることではないでしょうか。



袋町小学校平和資料館を見学

私は、広島平和記念資料館に訪れたり、ひろしま子ども平和の集いに参加したりしました。

広島平和記念資料館に入ってすぐ左側に、原爆のせいで草木が枯れ、車も焦げている広島の姿があったり、2、3歳児が着ているような服がボロボロになっていたり、のどを潤すために放射線を帯びた黒い雨を飲んでいる絵がありました。他にも、放射線で体調を崩して、体温が40度→5度→40度と急激に変化しているグラフがありました。それらを見ていると、あまりにもかわいそうで心が痛かったです。

ひろしま子ども平和の集いでは、被爆体験講話の梶本さんの話が印象に残りました。梶本さんが友達を安全な場所に連れて行くために、死体の上を歩くなどの衝撃的な話を聞き、もし自分がその立場だったら怖くて行動できずに死を待っていたと思います。

私はこの体験から、今一度原爆が危険なものだと思いました。この体験を活かして原爆の怖さを友達などに話していきたいです。



広島市平和記念式典に参加

私は、原爆のことをもっと良く知りたいと思い、今回参加しました。

まず、広島平和記念資料館に行きました。そこでは、原爆の悲惨さを写真や絵、被爆した物を見てたくさん学びました。破れてボロボロの子供服、曲がった鉄骨などを見て本当に胸が苦しくなりました。さらに、被爆から数年後のことも展示してあり、家族が亡くなってしまったり、放射線による後遺症で苦しみながら生きたりしていた人もいました。その人たちは、私には想像しきれないほど、つらいことだったと感じました。

2日目、広島市平和記念式典に参加しました。8時15分、黙とうを行いました。79年前の今日、この場所で原爆が落とされて多くの人がつらい思いをしたと考えたら、胸が痛くなりました。こんなことを二度と起こさないためにも、核の不必要さと平和を、より多くの人に伝えていくことが大切だということ学べた2日間になりました。



ひろしま子ども平和の集いに参加

私は、世界各地で起こる戦争をニュースで観て、戦争というものを意識してきた。その中で、日本が唯一の被爆国であることを知り、原爆について深く知りたいと思い、今回式典に参加した。

一瞬で日々の温かい生活が奪われ、耐え難い痛みの中で苦しむ人、それを助けられなかった人が沢山いたことを身に染みて感じた。

更に広島平和記念資料館などでは、私たち日本人だけでなく、大勢の海外の方が来ていて、原爆に対して世界中が目を向けていることが分かった。絶望の中でも、伝えようと行動してくれた人がいることで、今、私達は原爆の悲惨さについて知ることができていることに気づけた。

私達は、今の毎日が当たり前であり、永遠に続くと思っている。だがそれは苦しんだ人達が必死に求めた平和であることを知った。

同じことが繰り返そうとされている今、平和を守るために私達がすべきことは、誰もが原爆の実態を知り、愚かな過ちに目を向けることであると、式典に参加して、深く学ぶことができた。



広島市平和記念式典に参加

1945年8月6日午前8時15分。広島県に一発の原子爆弾が落とされた。そのとき、誰が今日死ぬことを分かっていたのだろうか。

戦前の広島には、幸せな日々と人々の笑顔がたくさんあった。原子爆弾は、一瞬にして人々の全てを奪った。たくさんの命が消えて家族や友達を失った人が大勢いた。

広島平和記念資料館で見た写真の中で、私が印象に残っているのは、私より少し若い女の子が体のあらゆるところにけがをして包帯を巻いていた写真だ。その女の子は、私にこう語りかけてくるようだった。「どうしてこんなことをするの」。女の子は家が無くなり、家族も失ったのだと思う。さらに自分もけがをしていて、目の前は地獄のように残酷な光景が広がっている。寂しい、悲しい、つらい。私がここにいたら、生きることを諦めてしまうと思う。

今の私ができる平和への一歩は、この2日間で学んだことを一人でも多くの人に伝えること。そして今の日本が平和であり、私たちが存在していることに感謝しながら生きること。私は今の日本に生まれていることは奇跡に等しい。だから私は命を大切にして最後まで生きる。



ひろしま子ども平和の集いに参加

昭和20年8月6日、広島に原子爆弾が落下され何万人もの人々が亡くなり、けがをされ、今もなお深い傷あとや後遺症をもっている人がいる。このような戦争は二度とあってはいけないと思う。

私は8月5日、6日に広島に行った。

1日目、広島平和記念資料館では、原子爆弾によって犠牲になった方の写真・遺品がたくさん置いてあり、とても悲しくなりました。原爆ドームは鉄骨になって建っていて、改めて核兵器の恐ろしさを確認させられました。

2日目、広島市平和記念式典に出ました。「願うだけでは、平和はおとずれません。色鮮やかな日常を守り、平和をつくっていくのは私たちです。」これは、平和への誓いの文の一つです。私はこの言葉がとても心に残り、同級生や家族などに話をして、どうしたら平和になれるかを考えて、平和に貢献できるようにみんなで考えていきたいです。



ひろしま子ども平和の集い
原爆の絵画展を見学



広島市平和記念式典に参加



広島平和記念資料館を見学



藤枝市平和祈念式典にて
感想文を朗読



藤枝市

令和6年度中学生の広島市平和記念式典への派遣事業感想文集
発行：令和6年8月

静岡県藤枝市岡出山1丁目11番1号 藤枝市総務部総務課